

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	976.50	2022/6/13
High	980.34	2022/6/13
Low	920.10	2022/6/15
Close	935.00	2022/6/17

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	4223.00	2022/6/13
High	4242.00	2022/6/13
Low	3971.00	2022/6/16
Close	4057.00	2022/6/17

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	1940.00	2022/6/13
High	1941.50	2022/6/13
Low	1788.00	2022/6/14
Close	1818.18	2022/6/17

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	8396.00	2022/6/13
High	8406.00	2022/6/13
Low	7726.00	2022/6/14
Close	7889.00	2022/6/17



ニュースエクスプレス

白金「代替需要でパラジウム並み高値に」英調査機関幹部

英国調査機関ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル (WPIC) の市場調査責任者トレバー・レイモンド氏は日本経済新聞のインタビューで、白金の市況について「ロシアのシェアが高いパラジウムからの代替需要が増え、今後2年間でパラジウム並みの高値に近づく」との見通しを示した。主な内容は以下の通り。

――2022年の白金の需給をどう見通していますか。
「現時点では供給242トン、需要は223トンを想定し通年で60万～65万トロイオンス (約19～20トン) 程度の供給過剰とみている。ただ流動的な要因があり、供給不足に転じる可能性もある」

「生産シェア約1割のロシアは、予測通りの供給があるか不確実性が高い。ウクライナ侵攻による経済制裁が採掘に影響を与えたり、市場の流通が制限されたりする可能性がある」

――白金はパラジウムとともに、自動車の排ガス浄化触媒に使います。ロシアの生産シェアが4割のパラジウムは供給の停滞が懸念されています。白金にはどんな影響が出そうですか。

「白金への代替需要はかなり増えそう。パラジウム価格はここ数年、白金を大きく上回っている。白金への切り替え自体はロシアへの経済制裁以前から、自動車メーカーがコスト削減のために行っていた」

「毎年生産される自動車のうち2割ほどが新モデルだ。使用するパラジウムの半分を白金に代替すれば自動車メーカーは全体で10億ドルほどの節約になる計算だ。すると需要は80万トロイオンス (約25トン) ほど上振れる」

「自動車メーカーは3年ほど先の先物や先渡し契約で金属を調達していることが多い。ロシアの侵攻を受けた代替需要を具体的に示すことは難しい。一方、スポット (随時契約) 取引で調達することが多い中国は4月に白金の輸入がかなり増えた。業界の先行きを暗示している可能性がある」

――自動車以外で増えそうな需要の動きはありますか。

「需要の増加要因として、脱炭素の流れを受けて石油など化石燃料の代替エネルギーとして見込まれる『グリーン水素』分野が注目されている。製造する電解槽に白金を使う。今後この分野では8年で約8トンほど需要が増えてくるとみられる」

――供給過剰が緩和した場合、白金価格はどう推移するとみえますか。

「金やパラジウムに比べると非常に割安だ。中国のゼロコロナ政策で需要が低下するといった懸念はあるものの、今後1年ほどは明らかに上昇基調になると考えている」

「WPICとして価格の予測は出していないが、パラジウム価格は現状と同水準 (1トロイオンス1800ドル前後) で推移し、白金は (現在同950ドル前後だが) 今後2年ほどかけてパラジウムの価格に近づいていくとみている」

(聞き手は堀尾宗正)
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB138RU0T10C22A600000/>

「常温で液体のプラチナ」が開発される、工業化学における革命の可能性

オーストラリアの研究者らが、融点が1700度超と極めて高いプラチナを室温で解けるよう加工する方法を発見したことを明らかにしました。触媒としての性能が優秀なもののコストが高いプラチナを、既存の方法よりはるかに効率的に利用できることが示されています。

ニューサウスウェールズ大学およびロイヤルメルボルン工科大学の研究者らは、融点が29.76度のガリウムを解かしてプラチナと化合させ、室温でプラチナを融解させるという方法を考案。この方法でもプラチナは触媒として機能し、触媒として効率的な比率はガリウム1に対しプラチナ0.0001未満というものです。

プラチナは触媒として非常に優れていますが、工業用に固体のプラチナを使用する場合、炭素ベースの触媒系だと10%程度のプラチナが必要です。プラチナそのものの価値が高く、運転に必要なエネルギーコストも重なるため、工業規模ではあまり採用されていないのが現実。しかし、今回研究者らが考案した液体ベースの触媒系は固体ベースのそれより1000倍以上効率的であるため、化学産業に大きな革新をもたらす可能性があります。

<https://gigazine.net/news/20220608-low-temperature-liquid-platinum/>



WPIC直近の活動

- 自動車のプラチナ需要に関する我々の予測は、内燃機関の自動車だけの需要は2028年にピークに達し、その後は燃料電池自動車に支えられて安定した成長を続けるというものである。詳しくは「**2022年6月 プラチナ投資のエッセンス 自動車の様々なドライブトレインの今後の見通しと長期的なプラチナ需要との関連**」をご覧ください。<https://platinuminvestment.com/investment-research>



(@wpicjapan)

免責事項: 本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資提案を意図するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。